

コスカシバ

サクラ、ウメ、リンゴなどの幹や枝に食い入るイモムシ（幼虫）。最大長約25mm。体は淡い茶色。頭部は茶色。幼虫の潜っているところからヤニや糞がでる。

公園や街路樹などで多発することがある。



1. 被害部位の拡大。2001/5/8.



2. 幼虫，体長13mm。1の樹皮を剥がしたところ。

美唄市，庭のエゾヤマザクラ。

【学名】 *Synanthedon hector*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ，スカシバガ科 (Sessidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；朝鮮半島，中国東北部。

【生態】

サクラ，オウトウ，ウメ，スモモ，モモ，ナシ，リンゴなどのバラ科樹木の幹や枝の樹皮下に穿孔する。

年1化。幼虫越冬。

発育の個体差が大きいため，幼虫は1年中みられる。成虫も春から秋までみられるが，出現ピークは9月。

雌成虫は樹皮の隙間に卵を1個ずつ産み付ける。幼虫は主に内樹皮を食べて成長し，そこで越冬する。翌春，再び加害を開始する。

【被害と防除】

公園や街路樹で多発することがある。被害木は樹勢が衰え，胴枯病などを併発して枯れることもあるといわれている。

ヤニや虫糞が出ているところを削って中の幼虫を除去する。細い被害枝は付け根から切り取る。

コスカシバ用の農薬としてサクラではMEP乳剤がある。農薬は取り扱い説明書にしたがって使用し，通行人や近くの住民らに十分配慮すること。また，性フェロモン剤（チェリトルア）があり，成虫の交尾を阻害することで増殖を抑制する。

【文献】

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑: I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪. (生態, 被害, 防除).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

コスカシバ shogarui/kosukasi/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/11.

1higai.jpg, 1yochu.jpg

「写真1～2」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.